

平成30年度福島県家保研修 ～研修を終えて～

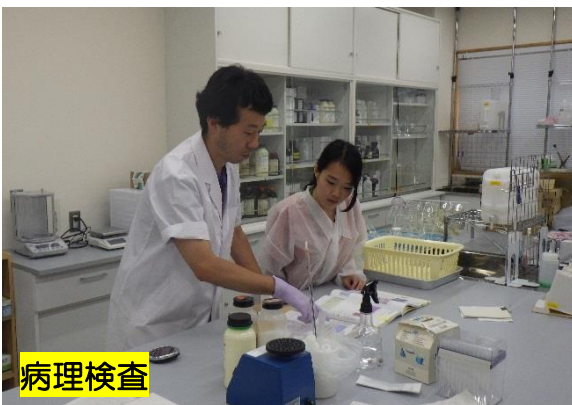
福島県では、獣医師を目指している大学生を対象に、家保業務への理解、関心を高めてもらう事を目的に、インターンシップを行っています。

研修では、県外出身の学生を受け入れ、研修期間中福島県に滞在してもらうことで、当県の魅力を直に感じてもらうことも目的としています。

平成30年度は、8月20日～9月7日の間に5日間の研修を3回行い、計4名の学生を受け入れました。

御協力を頂きました農家さん、関係者の皆様、ありがとうございました。

研修の様子



受講した研修生の感想



秋元尚樹さん 日本大学3年生

【参加したきっかけ】 大学の就職説明会

【印象に残った研修】 オーエスキー病検査、放牧検査、鳥インフルエンザ検査、病理検査

【感想】 家保の獣医師の業務内容は幅広く、とても興味深かった。疾病に対する知識だけでなく、農家さんとのコミュニケーションや信頼関係の構築や同僚との協調性が必要な仕事だと感じた。

小山久美子さん 日本大学5年生

【参加したきっかけ】 大学の掲示板

【印象に残った研修】 蜜蜂の腐蛆病検査、牛のヨーネ病検査、放牧衛生検査

【感想】 実際の仕事現場に同行させてもらったので、スケジュールの変更などもあったが、臨機応変に対応してもらい、充実した研修だった。実習を通じて家保や産業動物に興味を持つきっかけとなった。



鈴木桃香さん 日本大学5年生

【参加したきっかけ】 大学の就職説明会

【印象に残った研修】 豚の採血、放牧衛生検査、病性鑑定課の中毒の検査

【感想】 職員の方々が熱心に業務にあたっていることをひしひしと感じた。日々新くなる知識や情報を取り入れる努力が必要であり、とてもやりがいのある業務だと認識が改まった。

関口裕也さん 麻布大学4年生

【参加したきっかけ】 大学先輩からの口コミ

【印象に残った研修】 鳥インフルエンザ検査、放牧衛生検査、蜜蜂の腐蛆病検査、病理検査

【感想】 研修を受けた中央家保の雰囲気や職員の方の対応がとても良く、実習に参加しやすく、来て良かったと思った。原発事故以降の放射線対策も知り、福島県に対する良いイメージが深まった。

